

シラバス

2020 年度

ファインアート科絵画造形専攻 2年

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科/ビジュアルデザイン科/研究科

履修ガイド

1. カリキュラム

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、欠席扱いとなる場合がある。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を提出すること。
- (4) 各授業の出講表・シラバスとして授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法及び教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (5) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の日も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかりと守ること。
- (6) 気象庁より23区に災害警報（暴風警報・大雪警報等）が発令された場合は原則休校となる。その場合は、学校から休校のメール連絡を行う。
- (7) 日曜、祝日において基本的に学校は休日（附帯教育は除く）となるが、場合により日曜、祝日を授業日とすることがある。新年度ガイダンス時配布のスケジュールに記載されるのでよく確認をすること。
- (8) アトリエ開放日は、休日において授業日以外の目的でアトリエを学生に開放する。ただしこの場合、使用できるアトリエは学校の指定するアトリエのみとなる。

2. 単位の認定

- (1) 実技=課題の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
学科=試験、課題(レポート含む)等の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
- (2) 単位計算の基準=各授業科目（実技、学科共）に対する単位は週90分半期17週相当（25.5時間）の授業をもって1単位とする。

3. 進級の要件

本校の学生が進級するには、1年間の修得単位が31～33単位以上なければならない。

4. 卒業・修了の要件

本課程の学生が卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上修得しなければならない。

研究生は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

5. 履修に関する注意

- (1) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (2) 授業途中からの受講は原則として認めない。
- (3) 受講した科目は、原則として変更することはできない。
- (4) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行う事がある。

6. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行なうことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に行なわれる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載
- (5) 受講した科目の出席日数が、3分の2以上に満たないものは、原則として採点を受けることができない。

7. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

8. 採点基準

- (1) 採点は、60～100を合格とし、それ以下を不可とする。
- (2) 配点区分は次による。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

- (3) 採点保留(仮処置)による扱い

※学科において採点の結果、点数が59点以下の場合、不可となり原則として次年度以降において再履修となる。

※授業を担当する講師による採点が保留となった場合は、追課題（レポート含む）が課せられる。追課題の採点は専任の判断に委ねられ、成績会議によって認定される。

※修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1・2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。

9. 学科再履修

採点の結果、不可となった者は次年度以降において原則としてその学科目を再履修しなければならない。ただし、在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。

10. 仮進級及び卒業・修了資格判定及び卒業・修了判定

- (1) 本課程は前期授業と後期授業において学科・実技の履修状況の確認を学期末に学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。
- (2) 卒業・修了年次においては11月に卒業資格判定を行い、判定結果の掲示を行う。その際に出席、学科、実技などを考慮した結果、卒業・修了資格なしと判定のあった者は卒業・修了制作を着手する事ができず、卒業および修了不可となる。判断保留の学生については、3月において卒業・修了判定を行い、単位の修得状況によっては卒業・

修了制作の提出があっても卒業・修了不可となり、留年もしくは卒業・修了延期となる場合がある。

- (3) 学費において未納がある場合、卒業・修了判定において卒業・修了不可もしくは除籍となる場合がある。

1 1. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに専任教員に「受講届」を提出、面談、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やソフトなどの関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。

1 2. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業、学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得（単位数：受講授業単位に準ずる）
※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。
- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得（単位数：1単位）
※2年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。
「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。
- (3) ボランティア活動などによる単位修得（単位数：活動期間に準ずる）
※単位認定は原則、実質1日8時間のボランティア活動を5日行う事で1単位とする。
事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。
認定されるボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4) 学外コンペに出品することによる単位修得（単位数：1 単位）

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。

ただし授業の一環として行われた学外コンペの出品は認められない。

例：「JAGDA 学生グランプリ」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」

「GU タペストリーコンペ」etc

特別支援授業を通じて認定

(1) 特別支援授業を受講することによる単位修得（単位数：各 1 単位）

受講料：1 講座 15,000 円 / 採点方法：提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春季休暇、夏期休暇に実技授業・学科授業が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

1 3. 参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、すみやかに返却を行なう。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンスなどで使用する事がある。また、学校案内用の印刷物や広報（ホームページ、SNS など）および学校外など授業以外での目的で作品を使用する事がある。

1 4. シラバス・出講表・年間行事

シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。

※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

1 5. 各種書類

以下の書類は学校ホームページよりダウンロードできる。

(創形ホームページ → 学生生活 → スクールガイド →)

「住所変更届」「欠席届」「忌引届申請書」「感染症登校許可証明書」「学籍移動申請書」

「休学願」「受講届」「インターンシップ実習レポート」「ボランティア活動報告書」

*新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

ファインアート科絵画造形専攻

シラバス

前期授業名：「絵画概論」 担当講師：早見 堯

学習目標：絵画は支持体や絵具などの物質でできている。物質に心はない。その物質が私たちの心を揺れ動かす。なぜ？心のない物質が感情表現できるのはどうしてなのか。絵画を見ながらこうした謎を考える糸口をつかみたい。

授業内容：ベラスケスやエッシャー、デュシャンなどを通して絵画が成り立つ仕組みを知り、現代アートを中心にして古今東西の絵画を見ながら、それぞれの絵画がどういうふう
に作られ、どう見えるのかを一緒に考えていきます。

選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 II」 担当講師：内田雅之

***留学生は日本語能力試験 N1 対策と選択**

学習目標：フランス語 1 の修了者を対象として、一年次に習得した基礎力を基盤としながら会話表現・文法の両面での知識を広げていきます。また、少しずつ書かれたものを読む練習も行います。

授業内容：前期は、まず問題練習などを通じて、書くという別観点を少し意識しながら昨年の復習を行います。その後複合過去、単純未来へと文法面で次のステップへと移っていきます。後期は、フランス旅行の機会を想定して、オリジナルのフランス旅行のしおりを作成していく課題が課され、校内展示の機会を設けます。

授業名：「特別講座/就職セミナー」 担当講師：ゲスト講師

学習目標：特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。

就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

授業内容：7/11(土)就職セミナー1(卒業生)、9/5(土)海外留学準備コース講座 1、9/26(土)同窓会特別講座、10/2(金)海外留学準備コース講座 2、12/12(土)創形展特別講座、2/13(土)就職セミナー(就活ポートフォリオ) *日程は出講表を確認してください。

前期学科授業名：「日本語能力試験 N1 対策(留学生対象)」 担当講師：蔣 燕萍

***留学生はフランス語と選択**

学習目標：①日本語能力試験 N1 に合格できる力を付けること。

②試験対策にとどまらない全般的な語彙の力をつけること。

授業内容：試験に出題される「文字語彙」「文法」「聴解」の練習問題の解答を通じて日本語力を向上させること。

前期・後期学科授業名：「美術日本語(留学生対象)」 担当講師：メロス言語学院講師

学習目標：美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。

授業内容：1. 1分間スピーチ（30分）

2. 美術関係記事についてのディスカッション（50分）

3. 映像教材を用いた美術用語導入（90分）

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分）

5. 課外宿題

前期選択実技授業名：「映像ワークショップ」 担当講師：三田村光土里

学習目標：現代社会のクリエイティブ環境の中には、ますますアートの感性や発想を求められる機会が増えてきています。それらは目指す共通の理念がアートとデザイン共に人に「感動」を与える事を目標にしているからに他なりません。そういった時代の流れを受けて様々なアートの分野より活躍している講師からリアルタイムな現場の情報と方法論を学び、クリエイティブな発想の「入口」、「きっかけ」になる講座をめざします。

授業内容：フォト・ストーリーをつくろう

前期実技授業名：「ドローイング」 担当講師：工藤礼二郎、山本 晶

学習目標：絵画に対する視野を広げ、その多様性と可能性に触れることで、自らの表現世界をより豊かなものにする。

授業内容：「7日間の色と形」「7日間の身体性」をテーマに様々な手法でドローイングを行い、イメージの展開や絵画としての多様な造形要素とはどういうものか実践をとおして探る。最終的にはそれらのドローイングが作品として自立しうるかを検証する。

前期実技授業名：「現代美術演習A」 担当講師：山本 晶

学習目標：より一層多様化する美術表現に対する理解力を身につける。

授業内容：発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。美術の様々な表現方法を分析しテーマに対してどのように実践をするか演習します。

前期実技授業名：「絵画技法実習」 担当講師：安藤孝浩、工藤礼二郎

学習目標：ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。

授業内容：北方ルネサンスから 20 世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法(安藤)、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユ(工藤)を中心に学ぶ。

前期実技授業名：「物質と絵画」 担当講師：伊藤泰雅

学習目標：主題を明確化し、素材と手法の選択の過程で、作家としての自覚とこだわりを喚起する。物質性、絵画性の両面から制作を見直し、完成度の高い作品を 1 点以上制作する。

授業内容：主題について文章(言葉)と素描によりできるだけ明確にする。単色、有色の素描、コラージュによりエスキースを重ねる。支持体を選択(複数も可)し、手法を決める。物としての強度について意識しながら作品を制作する。

前期実技授業名：「現代美術演習B」 担当講師：黒瀬陽平

学習目標：現代の視覚文化は映像を媒体としたコンテンツを抜きにして成立しません。サブカルチャーからハイカルチャーまで、映像というメディアがどのような役割を果たし、どのように展開したのか。本講義では主に戦後日本を中心としてアニメや映画、ゲームなどの映像コンテンツが表現してきたものを読み解いていきます。

授業内容：現代美術への理解を深め、作品制作のヒントを得るために、レクチャーと課題&講評会、課外授業を組み合わせたカリキュラムを行います。レクチャーでは、現代美術についての原理的な解説、日本現代美術史と戦後日本文化全般の解説を中心に行います。

前期実技授業名：「絵画材料実習」 担当講師：工藤礼二郎

学習目標：絵画では描く行為の前にどのような支持体を準備するかによってその表現を大きく左右することになる。この授業では近世以降、油画の支持体の中心をなしてきたキャンバスの製作や材料講義を通してそれらが表現に与える影響を理解する。

授業内容：油性キャンバス（市販）の張り方から吸収性キャンバス（白亜地）及び半吸収性キャンバス（エマルジョン）の製作を通して、顔料や膠など様々な材料に触れると同時に絵の具や溶き油の性質の講義も行う。

後期実技授業名：「絵画と物語」 担当講師：山口 藍

学習目標：支持体と描画の関係性

平面絵画において、特に支持体が作品の内容にもたらす影響を改めて考え、実際の制作を通して描画との相互の関係性を探る。

授業内容：描こうとする題材（テーマ）を任意の物語や散文などの一場面に設定し、それを絵画作品として表現するために最も適した支持体を選び（あるいは作り）制作する。作品を構成するあらゆる要素に意味を持たせたり、それを伝えたりできると意識することで、作品制作において色々な角度から思考し掘り下げていくことにつなげていく。
※キャンバス以外にも、あらゆる物に支持体の可能性を探ってみること。

後期授業名：「写真と美術」 担当講師：松蔭浩之

学習目標：写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。

授業内容：歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。

後期実技授業名：「現代美術演習C」 担当講師：宇治野宗輝

学習目標：今までにやったことのないことをやる。

授業内容：絵画以外の形式で作品を制作。詳細は初日にディスカッションをして決定。

後期実技授業名：「先端メディア(先端メディア アート&デザイン)」

担当講師：八幡純和

学習目標：VR という技術とそこに連動して様々な新しい魅力を展開しているサービスへの理解。
また先端技術を応用した作品制作への展開。

授業内容：ゲームやファッションの世界だけでなく現代の様々なカルチャーやサービス、イベントなどと連動して発展している「VR (バーチャルリアリティ)」の世界。そのVR の仕組みと特性を理解しながらバーチャル空間ならではの作品制作を個々に試みます。

後期実技授業名：「連作主題研究」 担当講師：工藤礼二郎、高橋輝夫

学習目標：制作と並行してステイトメントとポートフォリオの実践も行う。以後、継続してポートフォリオの充実が図れるよう基本形を構築する。また DM の作成、作品展示の具体的な体験指導も行う。

授業内容：各自が任意の一つのテーマに沿って、3～5点の連作を制作する。モチーフ、テーマ、描画方法などは自由。作品サイズは一点に尽き8号～20号とする。講師との対話、クラス内での意見交換や文章理解などにより自分の制作を観察していく過程を大切にしながら、学内ギャラリー「ギャラリー・プント」で展示、発表するという目標に向けて制作プロセスを立案、実行する。

後期実技授業名：「主題研究・インターンシップ」

担当講師：工藤礼二郎、山本 晶

学習目標：2年次の授業を総合的に判断し、また新たなアートシーンにも触れながら3年次へ向けた自らの主題を探る。

授業内容：連作表現の各自の内容を指標に50号～100号前後の制作に取り組む。
就業体験（インターンシップ）をし、それをレポートにまとめて提出。（希望選択制）

学校法人高澤学園
創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp